

福井県教育振興基本計画の改定について

1 教育振興基本計画について

- ・教育基本法において、地方公共団体は教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努力義務を規定
- ・本県では、平成 23 年 9 月に福井県教育基本計画（現計画）を策定  
（対象期間：平成 23 年度～27 年度の 5 年間）
- ・現計画では、「福井型 18 年教育」の推進を重点として、概ね 10 年先を見据えながら、当面の 5 年間に行うべき施策を明示

〔基本目標〕

- ①確かな学力の育成、②豊かな心と健やかな体の育成、③信頼される学校づくり
- ④家庭・地域の教育力向上、⑤生涯学習とスポーツの振興、⑥文化の振興

2 改定の必要性

- ・今年度は現計画の 4 年目であり、来年度に期間が満了
- ・国では平成 25 年度から教育再生実行会議を行い、7 月には第 5 次まで提言  
（教育委員会制度改革、大学入試制度の見直しや小学校からの英語教科化など）
- ・国の動向を押さえつつ、福井の強みを活かした教育政策をまとめるため、今年度から次期教育振興基本計画の検討を始めることが必要

3 策定に向けた進め方

- ・福井の教育に関わっている県内外の有識者と県教育委員等により、次の 5 年間に  
行うべき新たな教育振興方策について意見交換
- ・今年度と来年度の 2 カ年で具体化を図り、最終的に県教育委員会で次期教育振興  
基本計画を策定
- ・今年度は、複数回の会議を開催して検討。併せて、県内各地区で学校・PTA 等の教  
育関係者や企業、地域の皆様等からも意見聴取

4 「福井の教育」向上会議

- ・第 1 回会議（平成 26 年 11 月 26 日（水）開催予定）  
（敬称略、50 音順）

| 委 員 名  | 性別 | 役 職                                   |
|--------|----|---------------------------------------|
| 秋田 喜代美 | 女  | 東京大学大学院教授                             |
| 石川 浩   | 男  | 石川製紙㈱代表取締役社長<br>（県 PTA 連合会特別委員長）      |
| 下谷 政弘  | 男  | 福井県立大学学長                              |
| 津田 節江  | 女  | これきワイワイズ 代表<br>（元県教育庁企画幹）             |
| 禿 了修   | 男  | 福井仁愛学園 理事長                            |
| 徳本 範子  | 女  | 敦賀市教育委員                               |
| 中室 牧子  | 女  | 慶応義塾大学総合政策学部准教授                       |
| 永瀬 昭幸  | 男  | ㈱ナガセ 代表取締役社長<br>（県学力向上センターアドバイザー）     |
| 長谷 光城  | 男  | 若狭ものづくり美学舎 チーフ・ディレクター<br>（元県教育庁教育審議監） |
| 羽田野 慶子 | 女  | 福井大学教育地域科学部准教授                        |
| 松木 健一  | 男  | 福井大学教職大学院教授                           |
| 吉田 真士  | 男  | ㈱福井新聞社 代表取締役社長<br>（県体育協会副会長）          |

※「福井の教育」向上会議には、県教育委員に加え、以下のオブザーバーも出席  
オブザーバー：福井県小学校長会、福井県中学校長会、福井県高等学校長協会、  
福井県都市教育長協議会、福井県町教育長会、福井県私立学校連合会など

# 福井県教育振興基本計画

2011年度～2015年度



# 福井県教育振興基本計画の体系

## 基本理念

## 福井県が進める「人づくり」

## 基本目標

## 5年間の施策の展開

## 計画の実現に向けて

夢や希望に向かって、豊かな心で  
たくましく生きる力を育む 教育県・福井

知・徳・体のバランスがとれ、生涯にわたって自らの夢や希望の実現に努力する人を育てます

地域社会や文化の創造に参画する人を育てます

ふるさとへの誇りとグローバルな視野を持ち主体的に行動する人を育てます

基本目標1  
生きる力につながる  
確かな学力の育成

基本目標2  
豊かな心と健やかな  
体の育成

基本目標3  
信頼される学校づくり  
の推進

基本目標4  
家庭・地域の教育力の向上

基本目標5  
生涯学習とスポーツの  
振興

基本目標6  
心豊かな文化の振興

1 確かな学力の育成

2 地域産業を担う人材の育成

3 幼児教育の推進

4 特別支援教育の推進

1 豊かな心の育成

2 健やかな体の育成

3 生徒指導・教育相談体制の充実

1 学校マネジメント改革の推進

2 県立高等学校の再編整備と  
魅力ある学校づくり

3 私学教育の振興と支援の充実

4 安全・安心な学校づくり

1 家庭・地域の教育力の向上

1 生涯学習の振興

2 生涯スポーツの振興

1 身近に文化を感じる環境づくり

2 文化教育の推進

3 「文字の国 福井」の推進

- ① 知識・技能の確実な習得と活用力の育成
- ② 少人数教育によるきめ細かな指導の推進
- ③ 教員の指導力向上
- ④ 理科・数学教育の充実
- ⑤ 国際人を育成する英語教育の充実
- ⑥ 情報教育の充実
- ⑦ 白川文字学による独自の漢字学習の推進

- ① キャリア教育の充実
- ② 高等学校での職業教育の推進

- ① 幼児教育の推進

- ① 特別支援学校の適正配置と機能の充実
- ② 一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実

- ① 道徳教育の充実
- ② 人権教育の充実
- ③ 豊かな体験活動の推進
- ④ 環境教育の推進
- ⑤ ふるさと教育の推進
- ⑥ 読書活動の推進

- ① 体力・運動能力の向上
- ② 健康教育の推進
- ③ 食育の推進

- ① 不登校対策の充実
- ② 生徒指導・教育相談体制の充実

- ① スクールプランの達成と教職員評価システムの構築
- ② 部活動改革の推進
- ③ 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
- ④ 小規模校での教育の振興
- ⑤ 小・中学校の統廃合への適切な対応

- ① 県立高校の再編整備と魅力ある学校づくり

- ① 特色ある私学教育の振興

- ① 学校施設の耐震化の推進
- ② 安全対策の充実
- ③ 防災教育の充実

- ① 家庭の教育力の向上
- ② 地域の教育力の向上

- ① 生涯学習環境の充実

- ① スポーツを通じた健康づくりの推進
- ② 平成30年の福井国体に向けた競技力の向上

- ① 「見る」から「楽しむ」「参加する」文化へ
- ② 文化施設をもっと身近に

- ① 文化教育の推進
- ② 文化の創り手・演じ手の育成

- ① 「文字の国 福井」の推進

### 計画の周知と 県民の意見の把握

計画の内容について広く周知するとともに、施策の進捗状況については県のホームページ等で積極的に広報します。  
教育に対する県民の意見や要望を把握するよう努めます。

### 福井県の実情に即した 独自性のある施策の推進

学校、家庭、地域の連携を基礎として、他県に先駆けて進めてきた教育施策をさらに拡大・発展させ、地方からの教育改革を実現します。

### 市町・関係機関・ 関係団体との連携

各施策を円滑かつ効果的に展開できるよう、市町教育委員会だけでなく、企業やNPO等の民間団体等とも連携を図りながら、計画を進めていきます。

### 計画の進行管理

各施策の進捗状況や評価を広く県民に公表するとともに、次年度以降の展開に反映します。

現計画施策 (H23～27)

◆ 基本目標1：学力の育成

「福井型18年教育」の推進

- ・ 学力向上センターの設置
- ・ 少人数教育を進め柔軟な学習指導を実現
- ・ 中高6年間を通じた英語コミュニケーション能力の向上
- ・ 国際科学オリンピックへの参加促進等による理科・数学教育の充実
- ・ 幼児教育支援センター設置、幼児教育プログラム策定
- ・ 白川文字学を活かした漢字学習の確立と定着
- ・ 学校全体の授業研究体制を支援
- ・ 大学との連携により教員の専門性向上
- ・ 教育研究所による教員支援の強化
- ・ 職業高校と大学等の連携による出前授業  
現場実習や資格取得を通じた専門技能習得

◆ 基本目標2：心と体の育成

- ・ ふるさと福井について理解を深める教育の実施
- ・ 体力テストの結果を分析して体力向上策に活用
- ・ 未然防止・初期対応等の不登校対策指針

◆ 基本目標3、4：

学校づくりと地域・家庭の教育力向上

- ・ 地域・学校協議会のネットワーク化、小中連携を進展
- ・ 教職員加配等により小中学校統廃合を支援
- ・ 県立高校の再編整備
- ・ 中高一貫教育など生徒の希望を実現する体制の検討
- ・ 幼児教育における「親育ち」支援の充実
- ・ 放課後子どもクラブなど地域による学校支援の充実

◆ 基本目標5、6：スポーツ・文化の振興

- ・ 福井国体に向け計画的に施設整備、選手強化
- ・ スポーツを通じた健康づくりの推進
- ・ 漢詩・短歌等を県民文化として醸成
- ・ 地域の核となる文化財を集中的に整備

成果

◆ 学力の育成

- ・ 学力向上センターを設置して1学期から学力調査の結果を授業に反映 (H24～)
- ・ 少人数教育を進め中学1年生で30人学級編制、小学校1～3年生の35人学級編制を実現
- ・ NHKと共同作成した独自音声・映像教材の活用等により英語の話す・聞く力を向上
- ・ 高校生が2週間の海外語学研修を開始、TOEIC成績が向上 (H23～約300名参加)
- ・ 全国科学オリンピックへの参加促進 (H22：100名→H26：250名)
- ・ 南部陽一郎など一流講師によるサイエンス講演会を実施 (H23～約1,900名参加)
- ・ 白川文字学を活かした独自の教材による漢字教育を全小学校で導入 (H23～)
- ・ 幼児教育支援センターを開設 (H24～)、保幼小接続カリキュラムを策定 (H26)
- ・ 授業名人による公開授業や授業を撮影したDVD等の活用 (H19～171名任命)
- ・ 県外からの教員受入を開始 (H24～20名)、県外先進校や行政に教員を派遣 (H24～35名)
- ・ 教職大学院へ教員を派遣。中堅教員・教頭を対象に福井大学との連携研修を開始 (H23～大学院107名派遣)
- ・ 「教育情報フォーラム」を運用して学習指導プランを共有 (H23～約4,500件)
- ・ 職業高校では国家資格等の取得を促進 (H25：約2,500名)
- ・ 企業現場での10日間の実習を開始 (H24～約250名)
- ・ 県外からの教育関係視察者数は5倍以上に増加 (H22：260名→H25：1,576名)

⇒ 小中学生の学力は7年連続全国トップクラス

高校生の授業わかる度はH23年の50%から76%に向上

◆ 心と体の育成

- ・ 郷土の先人の独自教材を全小学校で活用
- ・ こども歴史文化館で橋本左内や岡倉天心等の展示を実施
- ・ 全小学校で1時間以上の運動を行う「アクティブワン活動」を促進
- ・ 不登校対策指針に基づく未然防止、初期対応、自立支援による対策を徹底

⇒ 小中学生の体力は5年連続全国トップクラス

小中学校の不登校率がH15年から約2割低下

◆ 学校づくりと地域・家庭の教育力向上

- ・ 全小中学校でスクールプランを公表、小中学校の合同授業を実施 (H25：10回)
- ・ 奥越明成高校、坂井高校、若狭東高校を総合産業高校として再編
- ・ 県内小中学校の統廃合が進捗 (H15年小学校226校→200校、中学校87校→75校)
- ・ 県立高志中・高校が平成27年4月開校予定
- ・ 幼児教育支援センターを開設して保護者支援等を実施 (H24～)

⇒ 放課後子どもクラブはH22年の90.1%から全小学校区で6年生まで拡充

◆ スポーツ・文化の振興

- ・ 福井国体に向け特別強化競技 (19競技) の指定、スーパーアドバイザーの派遣 (49名) や専門教員の採用 (15名)、ジュニア選手強化指定 (568名) 等を実施 (H23～)
- ・ 県民スポーツ祭で体験イベントや冬季スポーツを普及 (H25：35,000人参加)
- ・ 小学3年生から中学3年生の国語で百人一首、古典、漢文を活用 (H25：130時間)
- ・ 文化財指定を迅速化 (4年間で37件を指定見込)

⇒ 国体順位はH22年の34位から17位に向上